

慶應義塾大学における 性暴力の実態調査結果報告書

Safe Campus Keio

要旨

調査の結果、慶應義塾大学における飲酒と性暴力の強い関係が示唆された。他、学生の性暴力に対する認識が正しく行われていないことが明らかになった。さらに、北米の大学において大学入学後に性暴力に関する説明会やモジュールを受講している学生が新入生・帰国生ともに約 8 割存在する中、慶應義塾大学においては約 7 割の学生がそのような説明会を受講していないと回答しており（なお、回答数は 325 件である）、学内における性暴力は先輩が加害者になる傾向がある点からも学生が正しい知識を持つ必要性が窺える。学生生活においては飲酒問題だけではなく性暴力も並行して、全ての学生が受講するガイダンスという形などで学生へのアプローチが必要である。

1. 調査概要

アンケートは、9月10日～10月10日の1ヶ月間を実施期間とした。対象は、学生、職員、卒業生の慶應義塾大学関係者であり、Google Form で回答を回収、keio.jp を所持している者のみを正式な回答者とした。調査方法としては Safe Campus Keio メンバー個人の SNS、団体 SNS (facebook, twitter, Instagram) を利用している。また、今年頭に行われたセクハラ防止に関する署名活動に署名された教員にメールを送り、回答、そして教員の授業を受講した学生への周知を頼んでいることから、回答率は不明である。

そのため、今回のアンケートの結果は、慶應義塾大学における性暴力の実態を完全に明らかにできるものではなく、回答者は基本的に性暴力に関心のある人であるというバイアスの存在は留意しておくべき点である。

本アンケートでは、実情把握を行い、学内の性暴力の実情を数字という形で把握し、それらを今後の性暴力防止策に活用していくことが最終的な目標となっている。

アンケートは、アメリカ大学協会 (AAU) という、高水準の学術研究と教育システムを維持するために設立された北米トップクラスの研究大学の組織が行ったアンケート、法務省や内閣府 男女共同参画局が行った性暴力に関するアンケート、国内他大学が行なったアンケートを参考にしながら作成した。

明らかにしたい点は、下記の通りである。① 現状、どのくらいの学生が性暴力の被害に遭っているのか。② 学生・教員は性暴力を性暴力と認識できているのか。③ 実際に相談をした人はどのくらいなのか、学内の相談場所は機能しているのか。(署名のコメントでは、取り扱ってもらえなかった、対応に満足しなかったという声が多数。)

回答時間は5～6分とし、以下の考察における【海外との比較】は、AAUレポート^(※1)を使用した。

(※1) AAUレポート：アメリカ大学協会 (AAU) は、高水準の学術研究と教育システムを維持するために設立された北米トップクラスの研究大学の組織。世界的な有名大学や研究大学を中心に、米国の公立大学と私立大学計60校とカナダの大学2校から構成される。AAUは2015年の調査のフォローアップとして、2019年春に同様の取り組みに参加する33校を集め再調査を行っており、今回はその結果を使用している。

2. アンケート結果のまとめ

回答数は、325 件(慶應全体の 1%以上)、SNS で広報を行っていたことから、母数を確認することが不可能なため、回答数は不明である。調査の結果、大きく 3 つのことがわかった。1 点目は、性暴力の現状である。一年生の性被害の**多数の加害者が先輩**であった。この結果から、性暴力は学生間で起きていることが窺える。また、二年生以上の回答者を対象として男女別に集計した結果、**女性が被害に遭いやすい**傾向にあることが明らかになった。二年生以上の女性の性被害に関しては、回答者のうち、「性的発言、性的なジョークを受けた経験」という項目において 45.7% にのぼっている。さらに、性暴力が発生しやすい環境としては**飲み会**の場所であるという傾向が明らかになった。

2 点目は、性暴力の認識である。性暴力に関心のある層が回答していると考えられるにも関わらず、レイプやセクハラでさえもそれを性暴力と捉える回答者は 100%とならなかったことから、性暴力の正しい認識が周知されていない可能性が考えられる。さらに、このような現状であるにも関わらず、大学で性暴力に関するなんらかの説明会やモジュールを受講したことがないと回答した学生は二年生以上で約 7 割、一年生で 8 割も存在している。

3 点目は、大学の相談機関や性暴力に対する姿勢である。AAU レポートにおける北米の大学において、学内の相談機関は積極的に活用されているが、慶應義塾大学における相談所の認知度は全体で半数を超える機関が存在しない。

(相談機関の対応についてはサンプル数の少なさから傾向を見出すことはできなかった。)

さらに、大学の性暴力に対する実際の対応については「ほとんど知らない」「全く知らない」学生が在学歴の長い二年生以上の学生の集計でさえ 8 割を超える結果となった。また、慶應義塾大学において「性的不正行為はそれほど問題視されていない」「全くされていない」と回答した学生は二年生以上の学生において女性で 48.4%、男性で 38.9%となった。

これらの結果を踏まえて、以下の 2 つを提案する。

① 飲酒喚起だけ積極的に行うのではなく性暴力に関しても並行して行う。

本報告書 P9 より、性暴力と加害者の飲酒には統計的に有意な関係性が存在することが明らかになった。先行研究においても飲酒は性的攻撃性と高い関連性があることが示されており (Abbey et al 2001)、このことから学生生活に関する注意喚起の際に、飲酒問題と並行して性暴力の問題についても並行して注

意喚起を行うことが学生に性暴力を意識させ、発生を防ぐ策になると考えられる。

②性暴力に関する説明会、モジュール、ガイダンスなどの実施

さて、国外の例として、アメリカの2013年のキャンパス性暴力撤廃法では、bystander behaviorに関するプログラムをキャンパス内で実施することが義務付けられている(Coker, Bush et al., 2016; Kettrey & Marx, 2019)。特に、多くの大学が力を入れているbystander intervention training(学生が、性暴力が行われた場で適切な介入ができるように訓練すること。)においては、外部の講師を呼んだ講義や大学独自の取り組みが行われている。(Association of American Universities(2017)より)その結果、2019年度におけるAAUレポートの結果では、新入生、帰国生ともに約80.0%の学生が性暴力に関するなんらかの研修を受けたと回答している。

また、実際の研修や説明会を受けた学生の約90.0%が、性暴力がどのように定義されているか、どのようにしてそれを防止するか、経験した人がいた場合にはどこに助けを求めればよいか、などの内容が含まれていると報告している。

アンケートの結果より、慶應義塾大学では学生の性暴力に関する認識の低さ、大学入学後に性暴力に関する説明会やモジュールなどを受講した学生の少なさが露見した。さらに、学生間において性暴力が発生しているという現状が明らかになった。これより他大学における性暴力に対する取り組みと慶應義塾大学における取り組みの違いが見受けられる。

以上の現状より、学生への正しい知識の付与が必要であり、知識の定着によって性暴力に対する意識が変わることで性暴力の発生自体を防ぐことができるのではないかと考える。そして、これは選択的な授業ではなく全ての学生が受講できるガイダンスのような形で行われるべきである。

付録 アンケート結果の詳細

回答者の所属と学年については、文学部一年生の回答が多かったため、非常に偏りのあるデータとなっている。今年度入学した一年生は、対面での授業がほとんどなかったため、「一年生」と「一年生以外」で分けた。（一年生のデータは、一年生がオンライン授業期間中に受けた性暴力であると考えられる。）

サンプルサイズ的にキャンパスごとに分けることは不可能である。

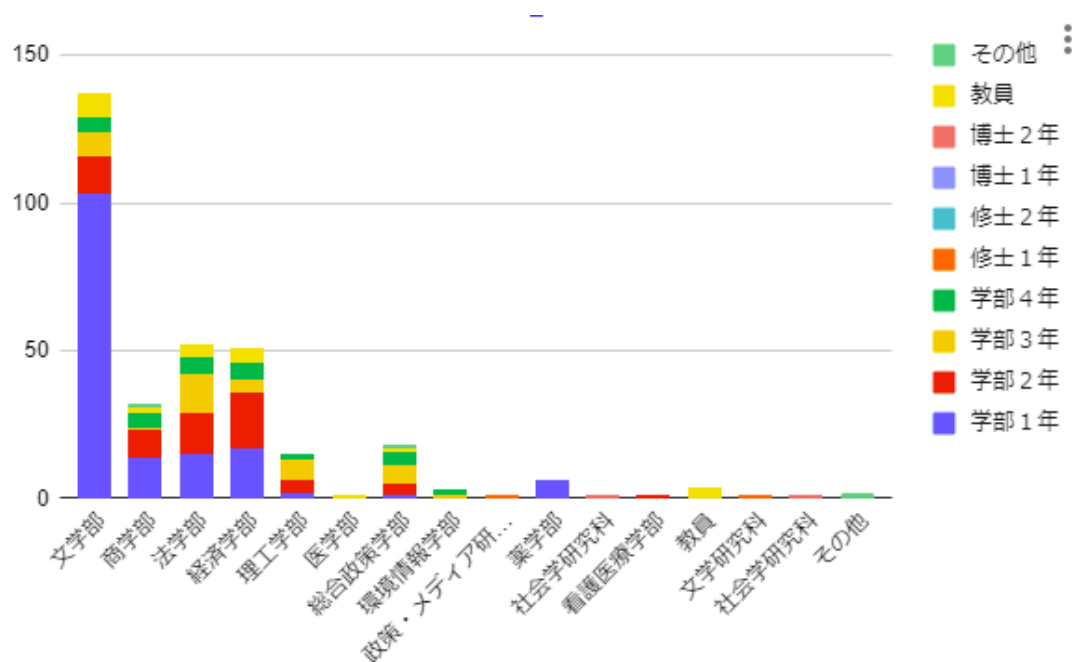


Table1. 属性に関する記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
age	322	18	62	21.87	7.656
teacher	325	0	1	0.08	0.267
ノンバイナリー	325	0	1	0.01	0.096
ジェンダーティア	325	0	1	0	0.055
sex (male=1, female=0)	318	0	1	0.4	0.49

【キャンパス内の性被害まとめ】

キャンパス内の性被害(全体)

【全体】n=325

性的発言、性的なジョーク: 19.7%
同意なく体を触られる: 6.8%
同意のない性行為: 2.5%

【一年生以外】n=167

性的発言、性的なジョーク: 34.1%
同意なく体を触られる: 11.3%
同意のない性行為: 3.6%

【一年生のみ】n=158

性的発言、性的なジョーク: 4.3%
(7人中6人が先輩)
同意なく体を触られる: 1.8%(全員先輩)
同意のない性行為: 1.25%(全員先輩)

※ 男女別で被害傾向を確認

【一年生以外】(女子のみ) 93名

性的発言、性的なジョーク: 45.7%
同意なく体を触られる: 17.0%
同意のない性行為: 5.3%

【一年生以外】(男子のみ) 72名

性的発言、性的なジョーク: 17.6%
同意なく体を触られる: 2.7%
同意のない性行為: 0%

▷ **女子の被害は45.7%**とかなり多い。(性的発言のみ)
男性の被害は少ないが、男性が回答しにくいという点には留意する。

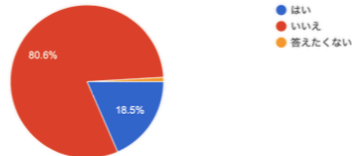
【海外の大学との比較】

● 学部生女性の身体的な力や同意できないことによる同意のない性的接触の割合は、33校で14~32%であった。

- 一年生のみ(オンライン下において)の性被害はかなり少ないがその加害の多数は先輩が行っている傾向にある。
→ AAU レポート(33校)では学部生の女性の性被害経験は一年生のときに多いという点が指摘されている。
→ オンライン授業期間中では性暴力がオフライン時に比べて起こりにくい可能性。※ オンライン上での性暴力ではなく、オンライン授業期間中の、オンライン上とオフラインどちらも含めた性暴力が起こっている。
- 一年生以外では性被害の経験は大きく増加。(性的発言 34.1%、同意なく体を触られる 11.3%)
- 男女で分けると女子の性被害が目立つ。性的発言・性的なジョークに関しては45.7%と2人に1人に被害経験があると回答。さらに全体の約17%が同意のないボディタッチを経験、5%が同意のない性行為を経験している。
- AAU レポートより、海外大学との比較では慶應は%的に少ない傾向にある。
→ 性暴力の理解や知識が増えれば報告件数が増加する傾向にあるため、これでは単に発生件数が少ないとは言い切れない。

見たり聞いたり...

Q7. 学内で、「この人は性暴力やセクハラを受けているんじゃないか」と心配になるような言動を見たり聞いたりしたことがありますか？
325件の回答



[全体] n=325
はい 18.5%

[一年生のみ] n= 158
はい 3%
(はい/一年生全体)

[一年生以上の学生] n= 139
はい 30%
(はい/一年生以上の学生)

5

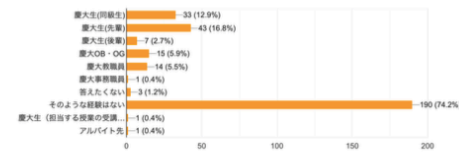
- 一年生以上の学生において、**およそ三割**が学内で「この人は性暴力やセクハラを受けているんじゃないか」と心配になるような言動を見たり聞いたりしたことがあると回答。

加害者になりやすい傾向を持つ属性

※複数回答あり

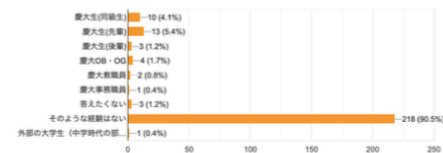
①性的発言、性的なジョーク

Q7. それは誰にされましたか？
256件の回答



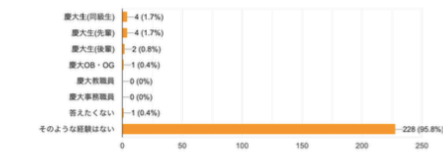
②同意なく体を触られる

Q10. それは誰にされましたか？
241件の回答



③同意のない性行為

Q13. それは誰にされましたか？
238件の回答



① 被害者数66名
1位 先輩 43名(被害の65%)
2位 同級生 33名(被害の50%)
3位 OBOG 15名(被害の20%)

② 被害者数23名
1位 先輩 13名(被害の56%)
2位 同級生 10名(被害の43%)
3位 OBOG 4名(被害の17%)

③ 被害者数10名
1位 先輩 4名(被害の40%)
1位 同級生 4名(被害の40%)
3位 後輩 1名(被害の10%)

▷ どの性暴力においても「先輩」(パワー構造が存在しかつ権力を持った側)が加害者になっている傾向。
▷ 学生間で発生している傾向

6

- どの性暴力においても先輩(パワー構造が存在しており、権力を持つ側)が加害者になっている傾向にある。
- 学生間で発生している傾向。
→ 性暴力は他人ではなく知り合いの加害が多い傾向にある。

● 飲酒と性暴力が頻繁に同時発生することを示した論文

- ・すべての性暴力の約半数が飲酒した男性によって犯されていたことを見出している。(Abbey et al 2001)
- ・399名の性犯罪者のうち、犯行時に飲酒していたのは51%に及ぶ。(山岡 1966)
- (内山 2000では、533名の性犯罪者のうち飲酒や飲酒の影響があったものは17.4%。)

→ 飲酒は性的攻撃性と高い関連性があることを示している。(Abbey et al 2001)
 → しかし、これは因果関係ではなく性的覚醒という変数を介在している可能性がDavis et al 2006によって示唆されている。(お酒飲んでしまったから性暴力を起こした、ではない。)

Table 2. 各性被害と飲酒の相関

	obs	1	2	3	4
1. 性的発言・性的なジョーク	324	1			
2. 同意のないボディタッチ	324	.341**	1		
3. 同意のない性行為	323	.197**	.478**	1	
4. 加害者の飲酒	48	-0.113	.421**	.301*	1

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。
 * 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

出典) 本アンケート結果より筆者作成

▷ それぞれの性被害は互いに有意に相関を持っている。

▷ 「同意のないボディタッチ」(1%水準) 「同意のない性行為」(5%水準) にも有意に相関を持っている。

→ 本アンケートにおいても飲酒と性暴力の発生においての関係性が確認された。

→ 「性的発言・性的なジョーク」において相関は飲酒との有意な相関関係は確認されなかった。

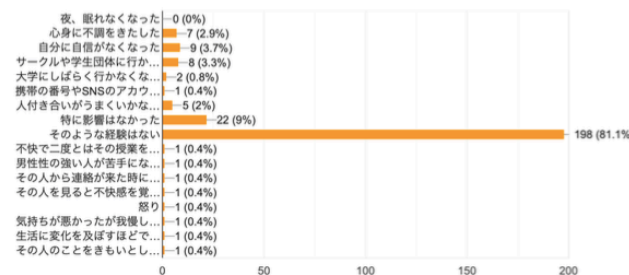
9

※ table2. 各性被害と飲酒の相関に関する「4. 加害者の飲酒」は「加害者の飲酒の有無」の回答から作成した変数であり、飲み会の場で性被害を受けた、という回答とは別のものである。

生活に及ぼす影響

Q15. 上記の質問の経験がある場合、それはあなたの生活にどのような影響を及ぼしましたか？(複数選択可)

244 件の回答



▷ 特に影響はなかったという回答が多数

▷ 心身への不調、自己肯定感、人間関係への負の影響があるケースも複数確認

▷ その他の回答なども含めた回答から自身の行動が変化した場合が複数。

→ 性暴力は受けた側が行動を変えなければいけない現状。

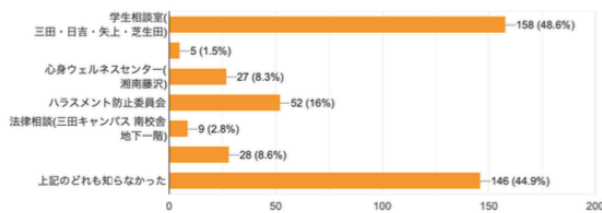
10

相談機関の認知度

全体

Q18. あなたは以下のサービスやリソースがセクハラ含む性暴力被害の相談を行なっていることを知っていますか？(該当するものをすべて選択してください)

325 件の回答



▷ 全体的に認知度が低い
・学生相談室においても認知度は50%以下

11

● AAU レポートより

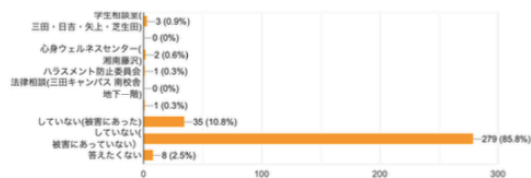
被害者が被害を受けた後に連絡を受けたプログラムやリソースの種類は、**学校のカウンセリングが最も多かった** (46.8%の被害者がプログラムやリソースに連絡していた)。学内警察 (11.2%) や地方警察 (9.4%) からの連絡は少なかった。

→ 学校機関の相談(カウンセリング)の重要性。

相談機関について

Q19. 大学に在籍して以来、これまでの質問にあった経験について以下のいずれかに連絡、相談をしましたか？(該当するものをすべて選択してください)

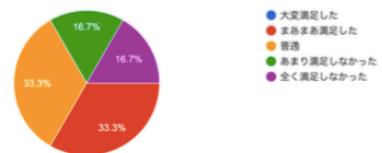
325 件の回答



▷ 被害にあった人の中で相談しなかった人は、**約76%もいる。**

Q20. 相談した場合：対応はどうか？(複数ある場合は、平均的な対応をお答えください。また、可能であれば詳細を最後の自由記述欄にてお答えください。)

6 件の回答



▷ サンプル数が少ない&ばらつきがありすぎて傾向については言及できない。

12

● AAU レポートより

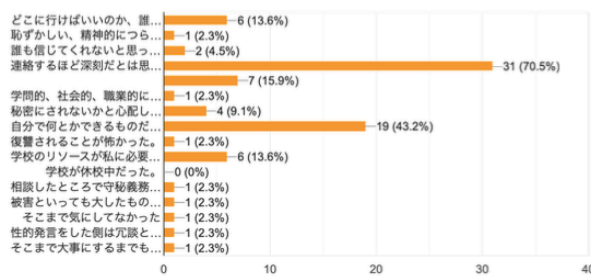
学校のプログラムやリソースを経験した回答者の 35.0%の学生は、「全く役に立たなかった」または「少し役に立った」と感じており、40.7%の学生は「非常に役に立った」または「非常に役に立った」と感じている。

→ 学内の相談機関の重要性。

相談機関について

Q21.相談しなかった場合:それは何故ですか?(該当するものをすべて選択してください)

44 件の回答



▷ それほど深刻だと思っていなかった人が最も多い。

→ 学生に性暴力自体が重要視されていない？

→ 性暴力の日常化

【海外の大学との比較】

女性がプログラムに連絡しなかった最も重要な理由は、自分で対処できるから(20.0%)、被害者が援助を求めるほど深刻な事件ではないと思ったから(16.8%)または被害者が恥ずかしい、恥ずかしい、援助を求めるのが感情的に難しいと感じたから(15.9%)であった。「十分に深刻」だと思わなかった理由について詳しく尋ねたところ、ほとんどの人が怪我をしていないからと答えました(女性69.8%、TGQNの学生59.4%、男性67.9%)。

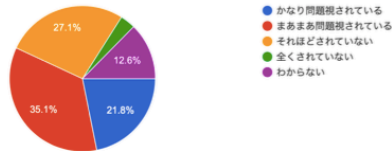
13

● 性暴力を受けても相談に行くほど深刻と感じていない学生が多数存在し、それに繋がっていると考えられる「性暴力の日常化」という現状が窺える。

→ 性暴力抑止には、相談機関を強化することも必要ではあるが、まずは性暴力に関する正しい知識・認識が必要。それは、授業などの選択的なものではなくガイダンスなどで大学に通う全ての学生が受けられるような普遍的なものあるべき。

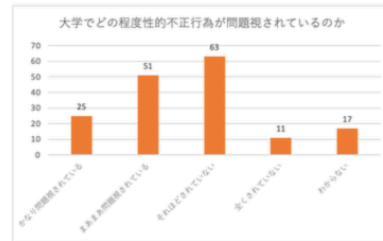
大学の姿勢

Q22. 大学での性暴力やその他の性的不正行為はどの程度問題視されていますか？
325 件の回答

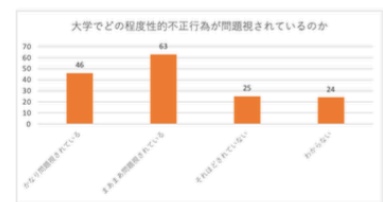


- ▷ 全体では、かなり問題視されている・まあまあされているが半数以上を占める。
- ▷ 一方で一年生以上では、44%の人が、それほどされていない・全くされていないと回答し、これは肯定的な回答の割合(かなり問題視されている・まあまあされている)を上回っている。
- ▷ 一年生は半数以上が肯定的な回答をしており、上級生との認識の差は、報道された数々の性暴力に関する事件が在学中に起こっているか否かであったり、単に所属期間が短いことで大学についての情報不足が考えられる。

二年生以上(n=167)

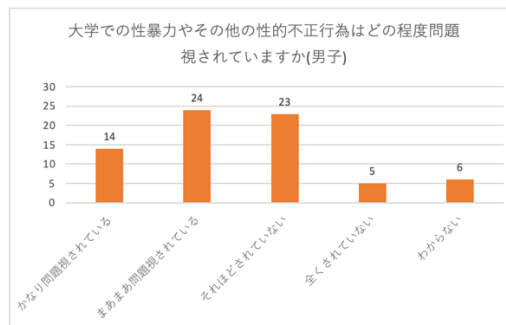
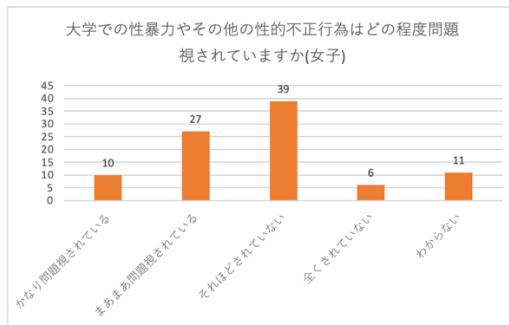


一年生のみ(n=158)



14

二年生以上の女性 n=93 二年生以上の男性 n=72



●AAU レポートより (2019 年)

学部生女性の 36.7%(std. 0.2) 男性の 20.1%(std. 0.2)、TGQN の 45.4%(std. 1.5) が extremely, very 問題視されていると回答。

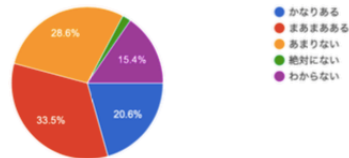
→ 慶應は一年生以上の女性の 39.8%、男性の 52.7%がかなり、まあまあ問題視されていると回答している。(女性の 48.4%、男性の 38.9%がそれほどされていない、全くされていないと回答。)

→ 被害に遭う傾向にある女性の方が否定的な回答をしている。

大学の姿勢

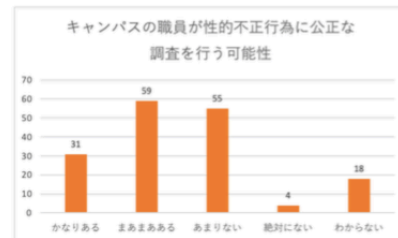
Q23. 誰かが大学の職員に性暴力やその他の性的不正行為を報告した場合、キャンパスの職員が公正な調査を行う可能性はありますか？

325件の回答

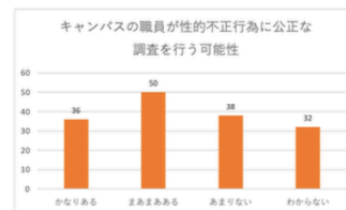


- ▶ 全体では、かなり問題視されている・まあまあされているが半数以上を占める。
- ▶ こちらは一年生のみ、一年生以上に分けても半数が肯定的な回答をしている。
- ▶ 一年生以上において、あまりない・絶対ないと回答した人は約35%。
→ 3割以上が公正な調査を行う可能性について否定的な回答をしているという現状。
- [理由は?]
・過去の報道より、学生への対応が不透明であったことが影響している可能性。

二年生以上(n=167)

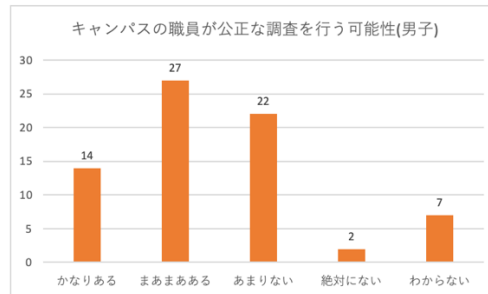
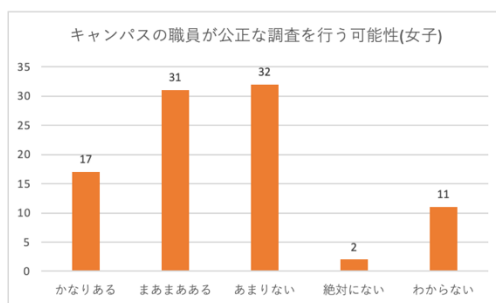


一年生のみ(n=158)



15

一年生以上の女性 n=93 一年生以上の男性 n=72



●AAU レポートより (2019年)

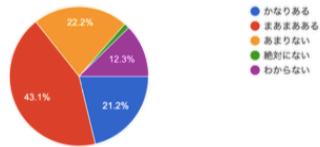
学部生女性の 40.5%(std. 0.2) 男性の 57.0%(std. 0.3)、TGQN の 27.5%(std. 1.4) が extremely, very 行うと回答。

→ 慶應は一年生以上の女性の 51.6%、男性の 56.9% がかなり、まあまああると回答している。(女性の 36.5%、男性の 33.3% がそれほどされていない、全くされていないと回答。)

大学の姿勢

Q24. 誰かが大学の職員に性暴力やその他の性的不正行為を報告した場合、キャンパスの職員がその報告を真剣に受け止める可能性はありますか？

325 件の回答

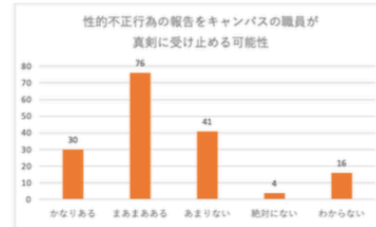


▷ 全体ではかなりある&まあまああると回答した人が約65%で半数以上が大学は真剣に受け止める可能性があると捉えている。

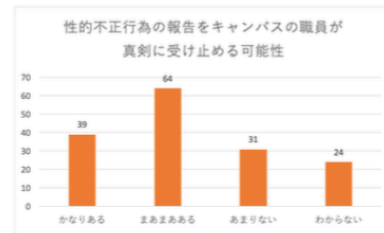
▷ 一年生のみ、一年生以上で分けてもその傾向は変わらないが、あまりない・絶対にないと回答した生徒は一年生以上を対象にした際に25%を占める。

【海外の大学との比較】
全体では65.6%の生徒が、学校当局が性的暴行の報告を真剣に受け止める可能性が「非常に」または「非常に」高いと回答している。

二年生以上(n=167)

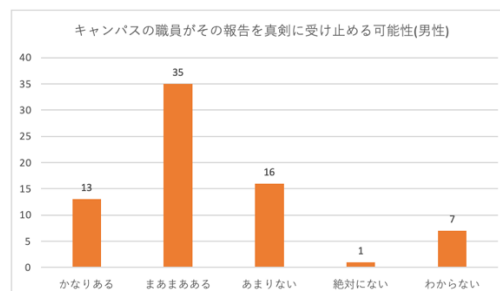
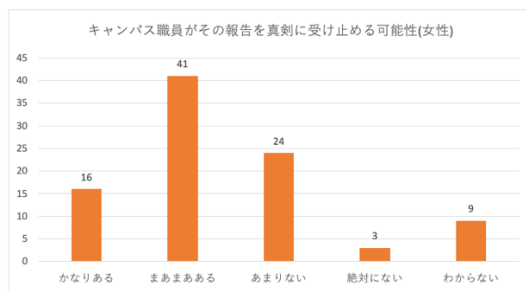


一年生のみ(n=158)



16

一年生以上の女性 n=93 一年生以上の男性 n=72



●AAU レポートより (2019 年)

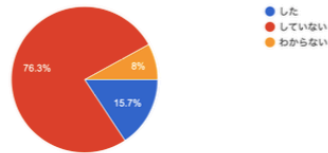
学部生女性の 53.5%(std. 0.2) 男性の 74.8%(std. 0.3)、TGQN の 43.7%(std. 1.5) が extremely, very 行うと回答。

→ 慶應は一年生以上の女性の 61.2%、男性の 66.6 %がかなり、まあまああると回答している。(女性の 29%、男性の 23.6%がそれほどされていない、全くされていないと回答。)

既存の性暴力に関する説明会やモジュールについて

Q25. 慶應義塾大学に入学してから、性暴力やその他の性的不正行為に関する研修モジュールや説明会を受講しましたか？

325 件の回答

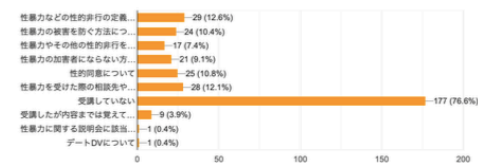


▷ 性暴力に関する研修モジュールや説明会を受講していない人は7割超え。

▷ 受講した人は内容を覚えている傾向にあるが、そもそも受講したことすら覚えていない学生の存在も否めない。

Q26. これらの研修モジュールや説明会には、どのようなトピックが含まれていましたか？該当するものすべて印をつけてください。

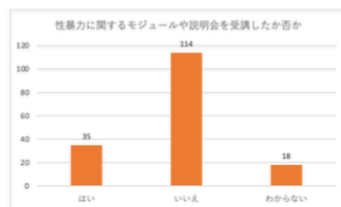
231 件の回答



17

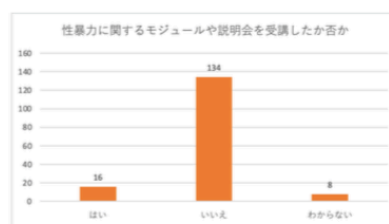
既存の性暴力に関する説明会やモジュールについて

二年生以上(n=167)



▷ 加害者になりやすい傾向にある先輩のうち、約68%が性暴力に関するモジュールや説明会などを受講していないと回答。

一年生のみ(n=158)



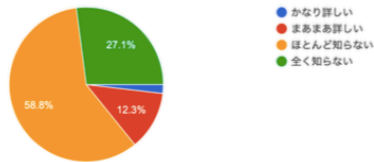
▷ 大学入学から数ヶ月、性暴力に関するモジュールや説明会を受講していない人が8割を超える。

18

大学の対応に関する知識

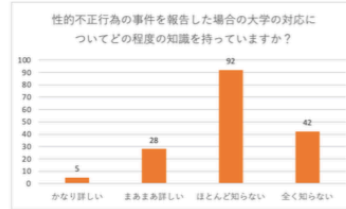
Q28. 学生が大学で性的暴行やその他の性的不正行為の事件を報告した場合にどうなるかについて、あなたはどの程度の知識を持っていますか？

325件の回答

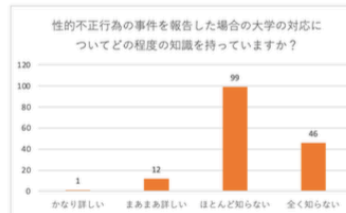


▷ 大学の対応について知らない学生がほとんど。
オンラインでもオフラインでも性的不正行為に対する対応は学生に知られていない。
→ 実際どのような対応がされている？どのような基準がある？

二年生以上(n=167)



一年生のみ(n=158)



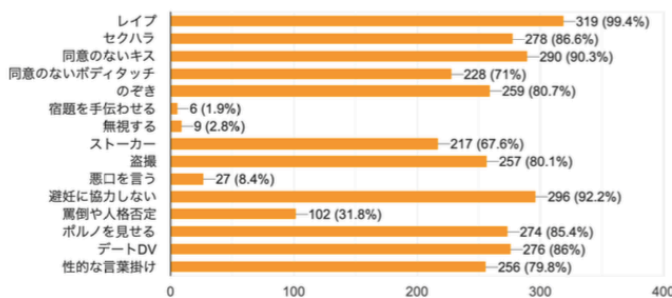
19

- 大学の姿勢について回答があったが、「対応」自体を知らない人が多数いることで学生が何を基準に大学の姿勢に関する回答を行なったのか不明。

学生・教員は性暴力を性暴力と認識できているのか

Q27. あなたは以下の行為のうちどれを性暴力と認識していますか？

321件の回答



▷ 宿題を手伝わせるを選択した人数は全て引く。
→ 考えて回答した方のみを使用。

▷ レイプでさえも100%ではない。
→ 質問を読まなかった可能性も。

▷ 性暴力が「性暴力」として認識されていない。

20

- 宿題を手伝わせる、という性暴力に明らかに当てはらない回答を選択している回答者は考えずに回答したと判断している。

- 無視する、悪口をいう、罵倒や人格否定など「性暴力」には当てはまらないものに関しても選択している人がいることから、「性暴力」が何に当たるかを理解していない学生の存在が確認できる。

【参考文献】

Abbey, A., Zawacki, T., Buck, P. O., Clinton, A. M., & McAuslan, P. (2001). Alcohol and sexual assault. *Alcohol Research & Health*, 25(1), 43.

Association of American Universities (AAU). (2017). Combating sexual assault and misconduct.

Cantor, D., Fisher, B., Chibnall, S., Harps, S., Townsend, R., Thomas, G., ... & Madden, K. (2019). Report on the AAU Campus Climate Survey on sexual assault and misconduct. Westat.

Coker, A.L., Bush, H.M., Fisher, B.S., Swan, S.C., Williams, C.M., Clear, E.R., & DeGue, S. (2016). Multi-college bystander intervention evaluation for violence prevention. *American Journal of Preventive Medicine*, 50(3), 295-302.

Davis, K. C., Norris, J., George, W. H., Martell, J., & Heiman, J. R. (2006). Men's likelihood of sexual aggression: The influence of alcohol, sexual arousal, and violent pornography. *Aggressive Behavior: Official Journal of the International Society for Research on Aggression*, 32(6), 581-589.

Kettrey, H.H., & Marx, R.A. (2019). The effects of bystander programs on the prevention of sexual assault across the college years: A systematic review and meta-analysis. *Journal of Youth and Adolescence*, 48(2), 212-227.

内山絢子, & 宮寺貴之. (2000). 資料 青少年の薬物乱用 (2) 飲酒・喫煙行動と薬物乱用. *科学警察研究所報告 防犯少年編*, 40(2), 146-155.

山岡一信. (1966). 犯罪行動の形態-4-性犯罪-3. *科学警察研究所報告*, 19(3), 202-208.